

## 学生の社会意識の因子分析 (補遺)

三 土 修 平

### I. 序

筆者は先に、愛媛大学学生 286 人を被験者として、50 種類の意見項目に対する賛否の程度を回答させた社会意識調査の分析結果を、「学生の社会意識の因子分析」として発表した<sup>1)</sup>。分析の結果得られた意見項目別の因子負荷量は、数表として示されただけでなく、レーダーチャートによっても表示された。ただし、その解説は、質問用紙にあった意見項目の番号の順を追ってなされたにすぎなかったため、意見項目相互間の関連に着目して、社会意識の構造全体をひとつの構図にまとめるというまでには至らなかった。そのため、読者から、どういう意見項目どうしがクラスター（群落）をなしているのかが解明されないと、分析として物足りないとの感想が寄せられた。そこで筆者は、本稿では、レーダーチャートをいまいちど整理しなおし、類似性の強い意見項目どうしや対照的性格をもつ意見項目どうしなどを同一の図の中にまとめることを通じて、意見項目全体の構造を把握するよすがを提供することにした<sup>2)</sup>。

### II. レーダーチャートの比較検討

以下で、レーダーチャートの比較検討を実行するが、まず類似性の強い意見

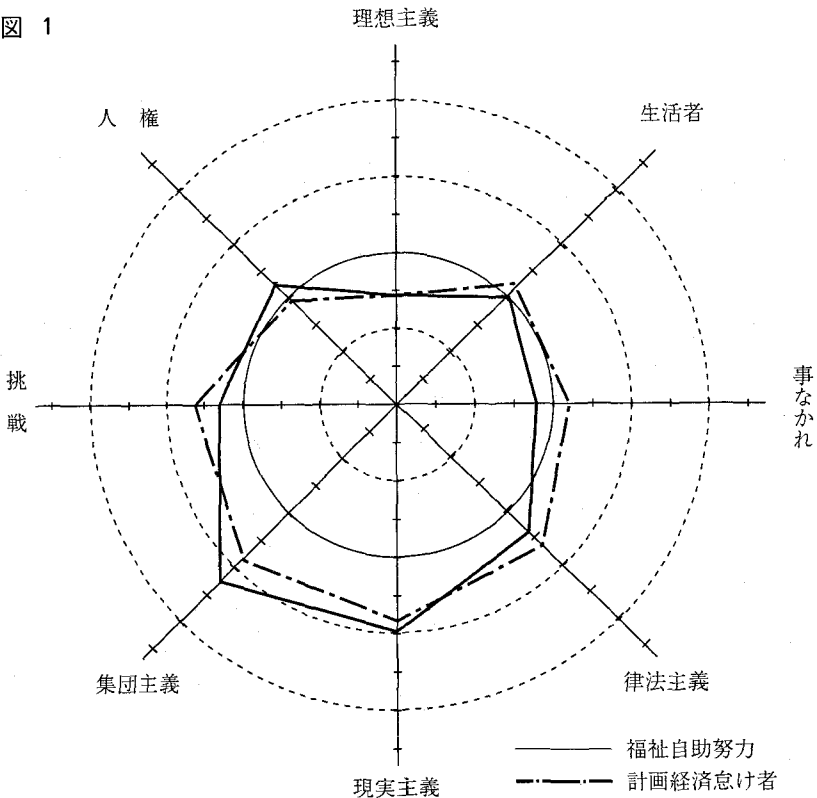
---

1) 三土修平「学生の社会意識の因子分析」『愛媛経済論集』第16巻第2号、1997、pp.41-84.

2) 因子分析の結果得られた因子負荷量をもとにして、変量相互間の近縁度を定量的に測定し、近縁度の高いものから順に変量をまとめてゆく手法として、クラスター分析がある。しかし、その分析結果を表現する樹形図は、変量どうしが近いか遠いかという距離の情報しか含んでおらず、どういう要素が共通しているがゆえに近いのかということ表現しえない。したがって、レーダーチャートの直接比較に対して、さして貴重な情報をつけ加えるものではない。したがってここでは、クラスター分析は用いず、もっぱらレーダーチャートの直接比較によつて類似性を論じることとする。

項目どうしの典型例をいくつか挙げ、つぎに対照的性格をもつ意見項目どうしの典型例を挙げる。その後、類似性をもちつつも相互に微妙な差異をもつ3個以上の意見項目を、特徴別にまとめて名前をつけ、クラスターとして考察する方向へと進むことにする。そのあとで、中間に立つ仲立ち的な意見項目を介して異質な意見項目どうしが寄り集まるという特殊なあり方のクラスターに注目する。そして最後に、国の安全保障にかかわるいくつかの意見項目を取り上げ、それらが一筋縄ではくれない事実をレーダーチャートによって確認し、レーダーチャート分析そのものの存在意義の再確認をして、分析を終わることにする。

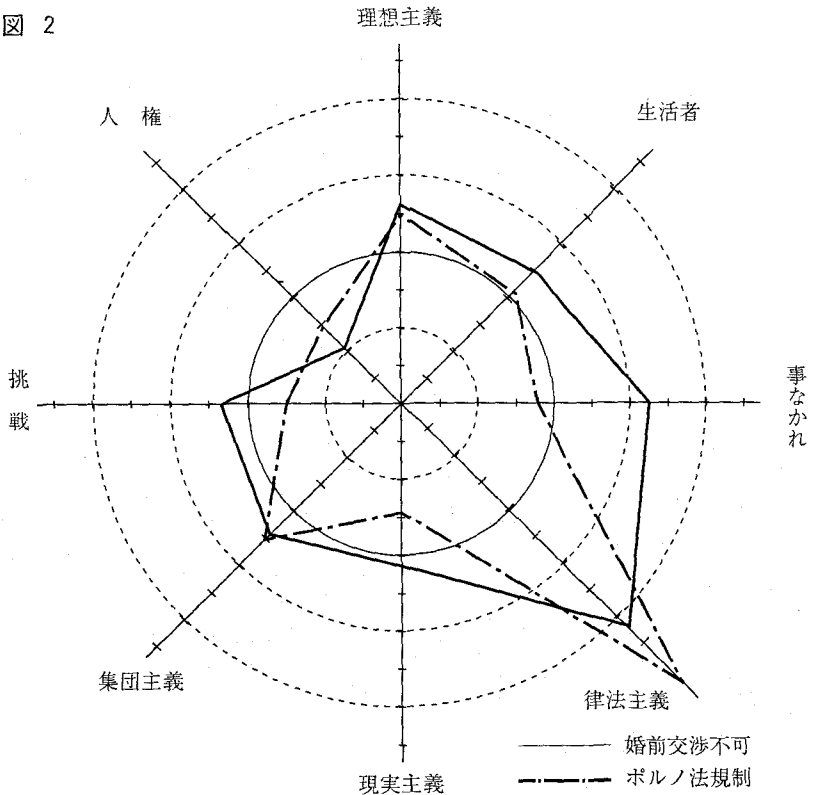
図 1



1. 類似性の強い意見項目の典型例

「福祉自助努力」と「計画経済怠け者」(図1)がまずその典型である(相関係数は0.12312)。この場合、両意見項目は、集団主義意識、現実主義意識、挑戦意識、律法主義意識から支持され、理想主義意識からは反発されるというように、きわめて多くの因子から同方向の影響を受けているので、当然ながら、被験者集団の中でのこれらの意見項目への賛否は連動してあらわれてくることになる。ただし、それぞれの因子の負荷量の絶対値はさほど大きくなく、因子の影響力はいずれもマイルドなものなので、両意見項目間の相関係数はさほど高くはない。

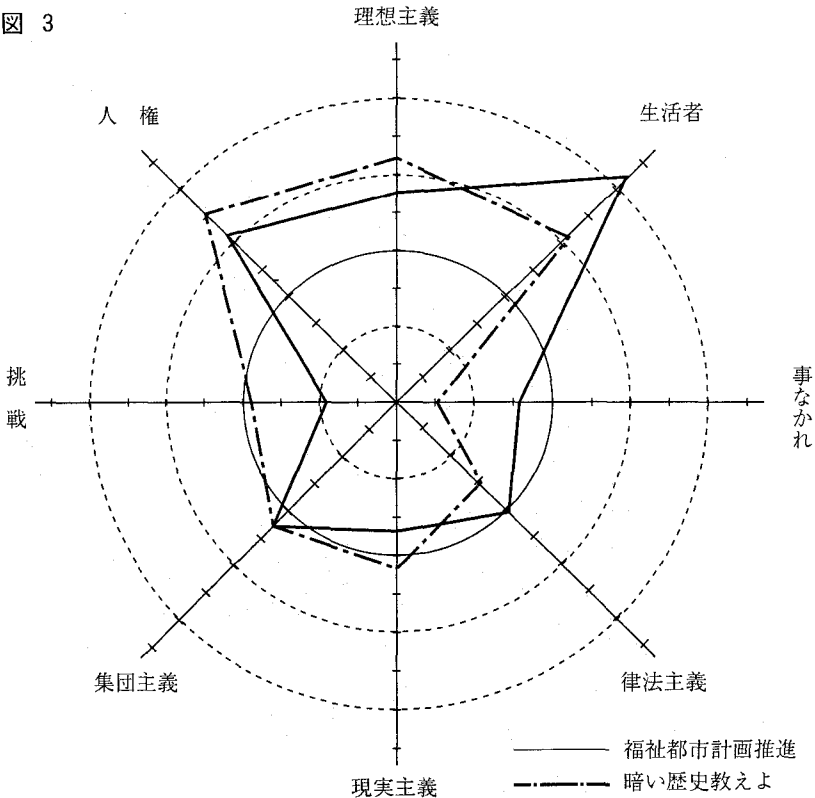
図 2



「婚前交渉不可」と「ポルノ法規制」(図2)の場合は、ともに律法主義意識によって強く支持されており、この単独の因子からの共通の影響のために、強い運動関係が生じている(相関係数は0.34653)。理想主義意識や集団主義意識から支持され、人権意識からは反発されるという点でも両意見項目には通じ合うところがある。しかし、それらの因子の影響はさほど強いものではない。

「福祉都市計画推進」と「暗い歴史教えよ」(図3)もかなり連動性がある(相関係数は0.24162)。両意見項目はともに理想主義意識、生活者意識、人権意識によって強く支持されているからである。ただ、挑戦意識が「福祉都市計画推進」に対しては否定的であるのに対して「暗い歴史教えよ」に対してはほ

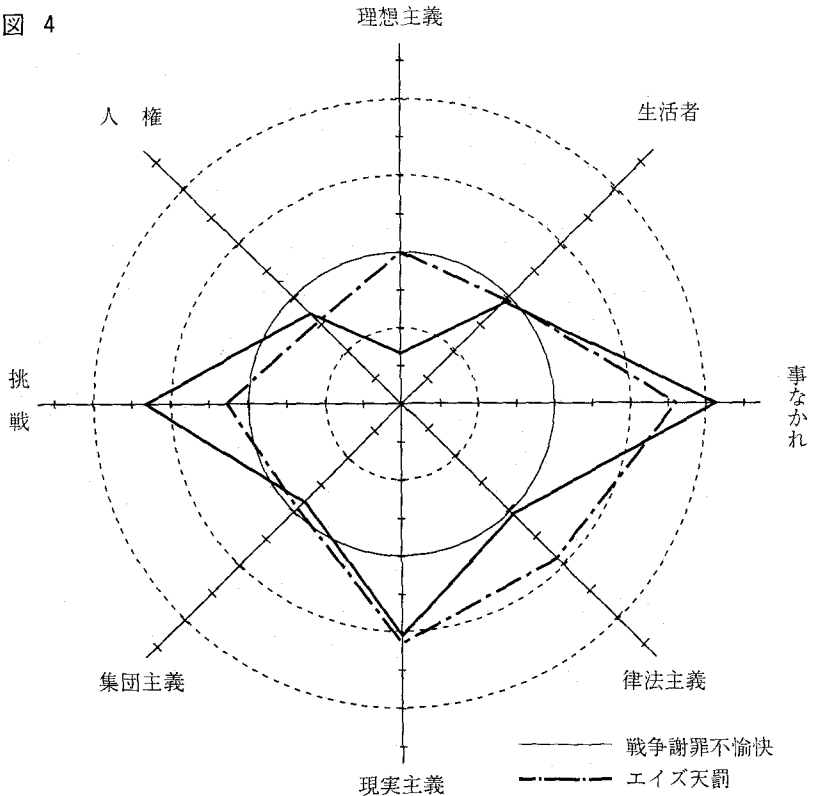
図 3



は中立である点、および、事なかれ意識が「暗い歴史教えよ」に対してははっきりと反発の側であるのに対して「福祉都市計画推進」に対してはそうでもない点が、両意見項目の相違点となっている。

「戦争謝罪不愉快」と「エイズ天罰」(図4)もかなり連動性がある(相関係数は0.19873)。両意見項目はともに事なかれ意識と現実主義意識によって強く支持され、挑戦意識からも支持される傾向にあるからである。ただ、律法主義意識が「エイズ天罰」に対しては積極的に支持の側であるのに対して「戦争謝罪不愉快」に対してはほぼ中立である点、および、理想主義意識が「戦争謝罪不愉快」に対してははっきりと反発の側であるのに対して「エイズ天罰」

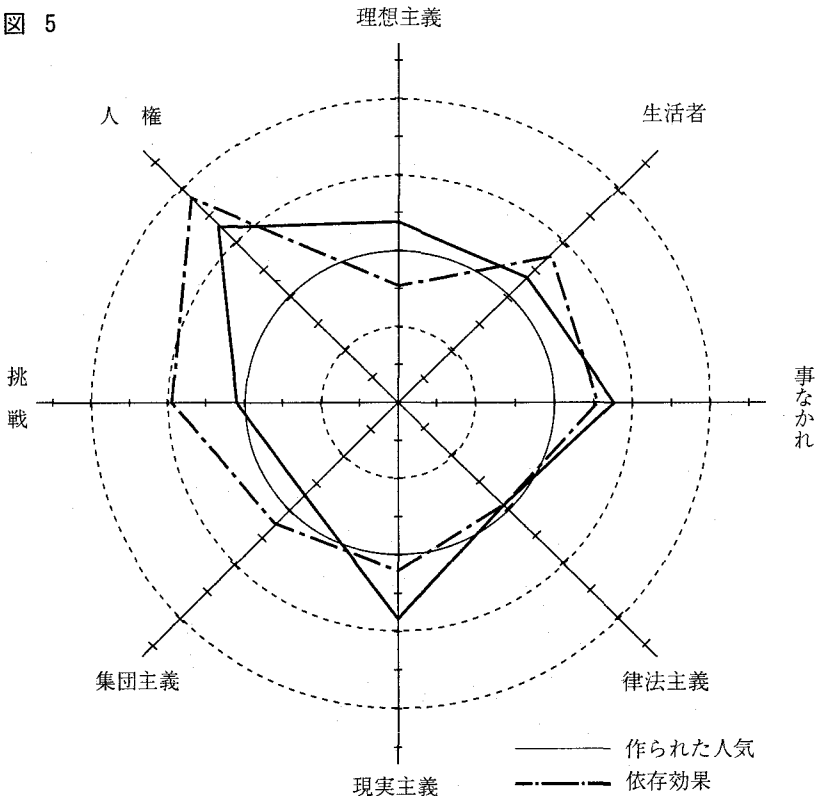
図 4



に対しては中立である点が、両意見項目の相違点となっている。これらの意見項目は、社会道德の現状を変更したくないという意識、および社会をシニカルに利害関心でながめる意識から、主として支持されているのである。

「作られた人気」と「依存効果」(図5)の場合は、両者ともに人権意識から強く支持され、事なかれ意識および生活者意識からも多少支持されているために、連動関係が生じている(相関係数は0.17456)。相違点は、「作られた人気」が現実主義意識から支持されているのに対して、「依存効果」のほうはそうでもない点、および、「依存効果」が挑戦意識から支持されているのに対して、「作られた人気」のほうはそうでもない点である。「依存効果」は大企業中

図 5

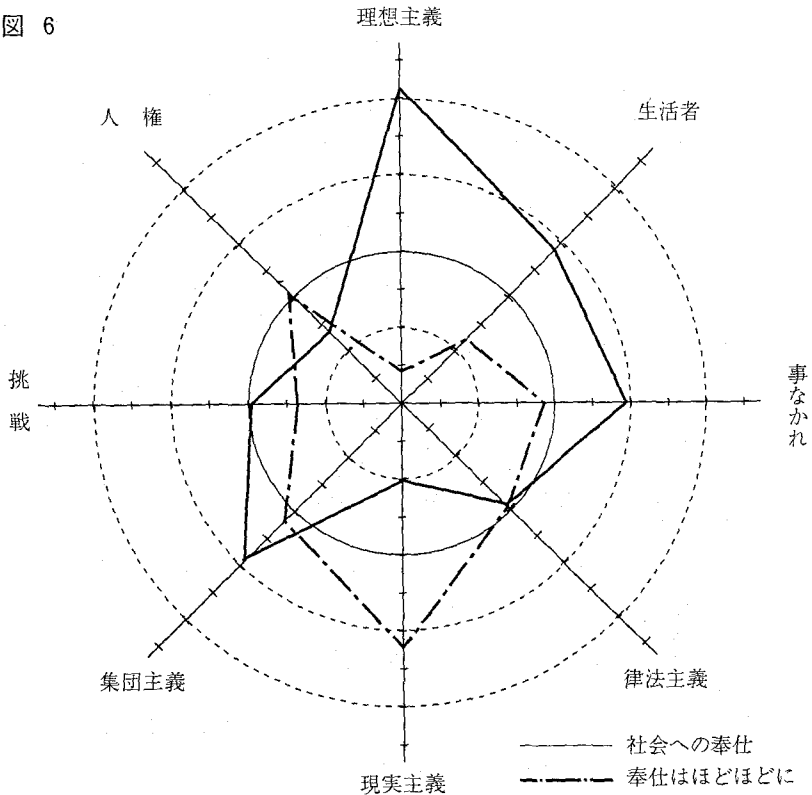


心の社会を批判する意見であるから、みずからベンチャービジネスなどを起こすことをよしとする挑戦意識の人々は、この考えに賛同する側にまわるようである。現実主義意識の人々は、優勝劣敗の現代資本主義社会そのものに反発する気持ちはあまりもたず、むしろそれを利用して生きればよいという考えであるせいか、大企業性悪説の観のある「依存効果」という考えには、あまり魅かれないようである。

## 2. 対照的性格をもつ意見項目の典型例

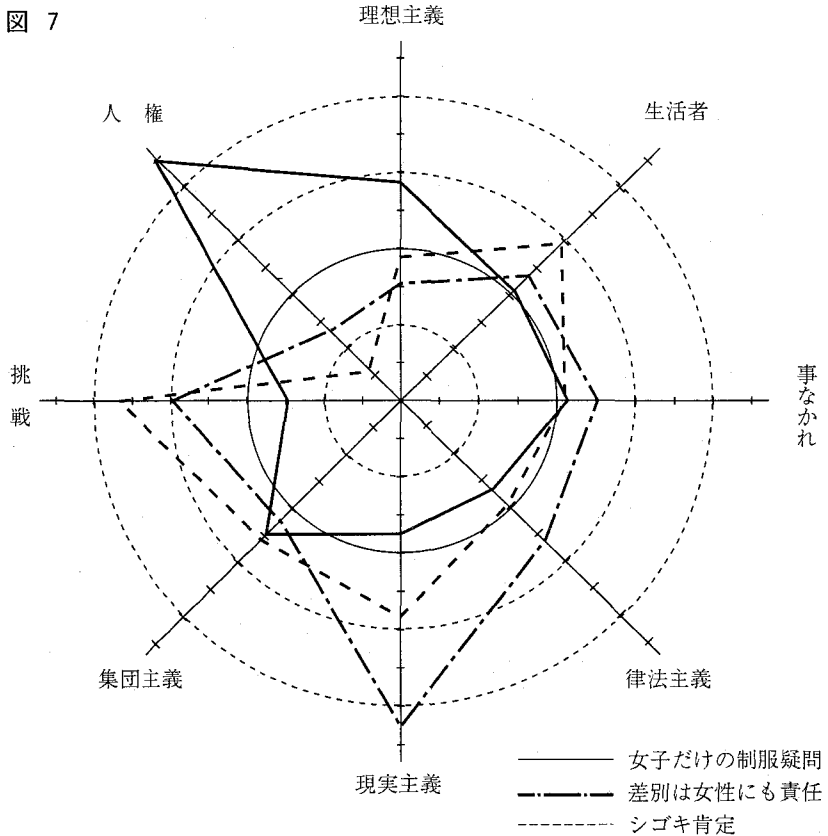
「社会への奉仕」と「奉仕はほどほどに」(図6)がまずその典型である(相関係数は $-0.24324$ )。「社会への奉仕」が理想主義意識と生活者意識から強

図 6



く支持され、現実主義意識からは反発されているのに対して、「奉仕はほどほどに」はこれら3因子から逆方向の影響を受けているからである。「社会への奉仕」はそのほかに集団主義意識からも支持されているが、「奉仕はほどほどに」に対してはこの意識はほぼ中立的である。

「女子だけの制服疑問」と「シゴキ肯定」(図7)にもかなりの対立性が見られる。「女子だけの制服疑問」が人権意識と理想主義意識から強く支持され、挑戦意識からは反発されているのに対して、「シゴキ肯定」はこれら3因子から逆方向の影響を受けているからである。挑戦意識は多分に体育会系の意識で





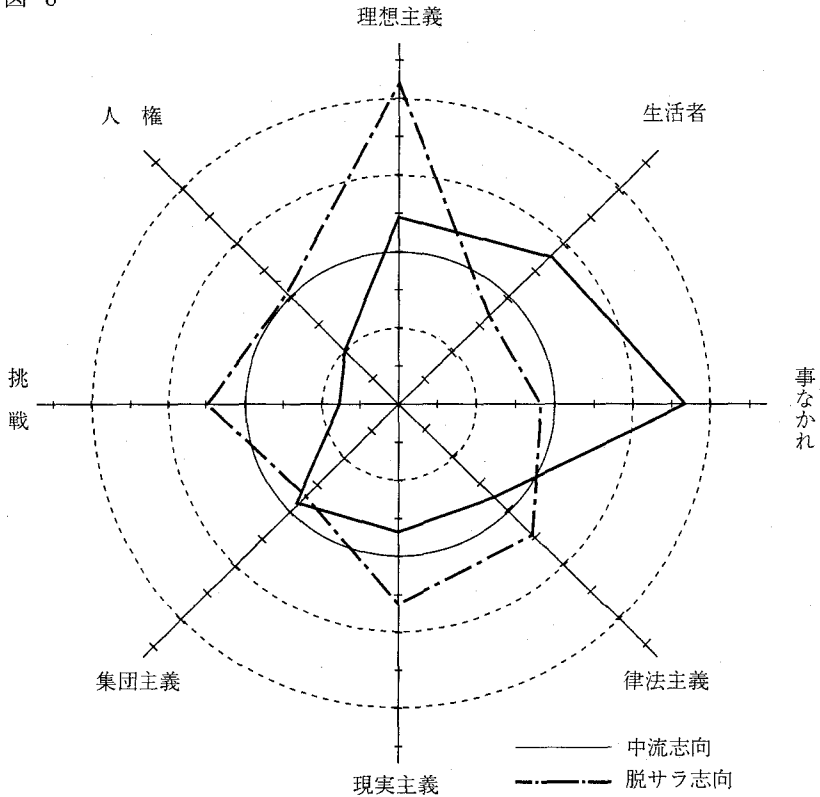
ある。この意識の人々の中には、応援団の「学ラン」にみられるように制服そのものが好きな人が多いため、女子だけの制服についても、差別というような観点からは見ないのであろう。常識的にみて「女子だけの制服疑問」と対立関係にありそうに思われる意見項目の筆頭は「差別は女性にも責任」だが、実際、この意見項目は「シゴキ肯定」とかなり近いレーダーチャートをもっている。ただ、「差別は女性にも責任」の場合は人権意識から反発される度合いが「シゴキ肯定」ほどには強くない。これは、人権について鋭敏な「進んだ」意識の持ち主のなかには、現在の平均的な女性の職業意識をみて「ふがいない」という感想を抱く人もあるためと思われる。なお、これら3項目のあいだの相関係数の構造は表1のようになっている。

表1

	女子だけの制服疑問	差別は女性にも責任	シゴキ肯定
女子だけの制服疑問	1.00000	-0.09054	-0.18047
差別は女性にも責任	-0.09054	1.00000	0.22751
シゴキ肯定	-0.18047	0.22751	1.00000

「中流志向」と「脱サラ志向」(図8)も、互いのレーダーチャートが大きく隔たった形態になっている意見項目の典型例である。ただし、直接的に対立する正負の負荷量がついている因子は少なく、一方の意見項目を強く支持している意識は他方の意見項目に対してはほぼ中立という場合が多い。たとえば事なかれ意識は「中流志向」を強く支持している一方、「脱サラ志向」に対してはほぼ中立であり、理想主義意識は「脱サラ志向」を強く支持している一方、「中流志向」に対してはほぼ中立である。つまり、両意見項目は、対立というよりはむしろ相互に独立の関係にある。ちなみに、両意見項目間の相関係数は0.05065であって、負ではない。

図 8

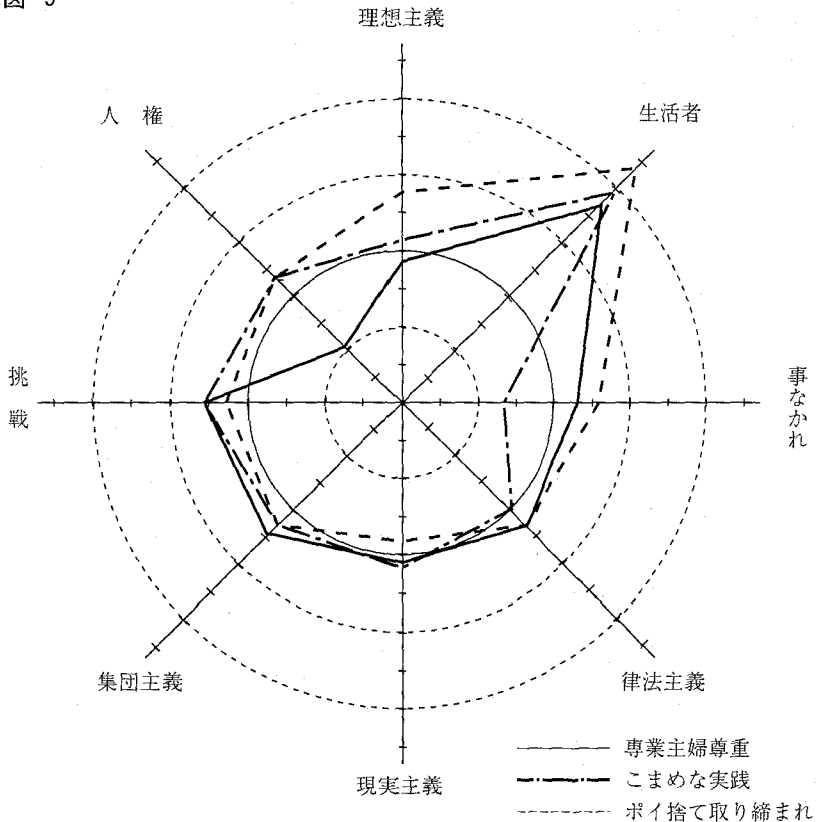


### 3. 生活者型の意見項目群

以下では、何らかの因子軸の方向に突出したレーダーチャートをもつという意味で共通性のある意見項目を、突出方向別にまとめてクラスターとしてながめ、その特徴を記述してゆくことにする。なお、複数のクラスターに同時に属すると判定される意見項目も多数存在する。

まず、「専業主婦尊重」「こまめな実践」「ポイ捨て取り締まれ」の3者は、生活者意識によって強く支持されるという点で共通の特徴を有し、生活者型の意見項目群としてまとめることができる(図9)。これらのうち「専業主婦尊重」だけは人権意識から反発されているという点で多少他と異なっている。こ

図 9



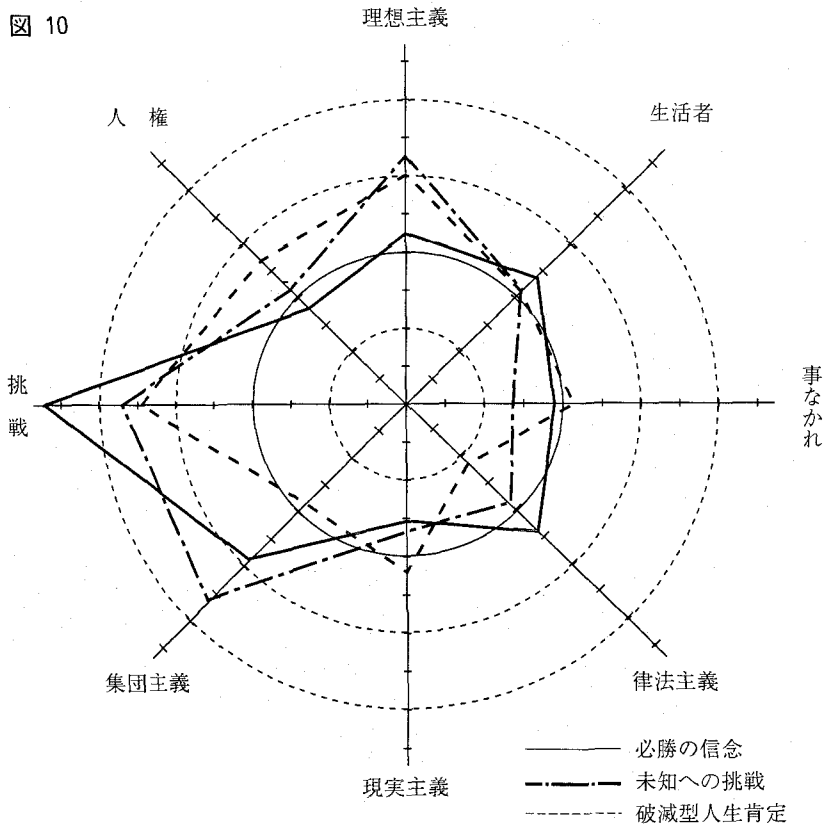
の意見が女性の社会進出に対して消極的な対応を招きかねない意見であることを考えれば、これは当然予想される場所である。しかし、それ以外の点では、この「専業主婦尊重」のレーダーチャートはむしろ予想に反している。たとえば集団主義意識は国家や会社が大切だという意識であるから、ひと昔前の常識からすれば「婦人は家庭に帰れ」といった考え方と結びつきそうなものだが、この因子軸と「専業主婦尊重」とのあいだに特に強い関係はみられない。つまり、このごろの若い世代のあいだでは、かりに専業主婦を尊重するとしても、その動機的主要部分は生活者自身の生活愛護感覚であり、ビジネスマンの減私

奉公的忠誠を背後から支える補給基地の役割を家庭に求める「日本株式会社」のイデオロギーではなくなっている、ということであろう。

#### 4. 挑戦型の意見項目群

「必勝の信念」「未知への挑戦」「破滅型人生肯定」の3者は、挑戦意識によって強く支持されるという点で共通の特徴を有し、挑戦型の意見項目群としてまとめることができる(図10)。これらのうち「破滅型人生肯定」だけは集団主義の要素を含まない(つまり、「国家や会社がどうなろうと、自分は自分の好きなように生きかつ死んでやる」という考え)が、他の2者は集団主義をもか

図 10

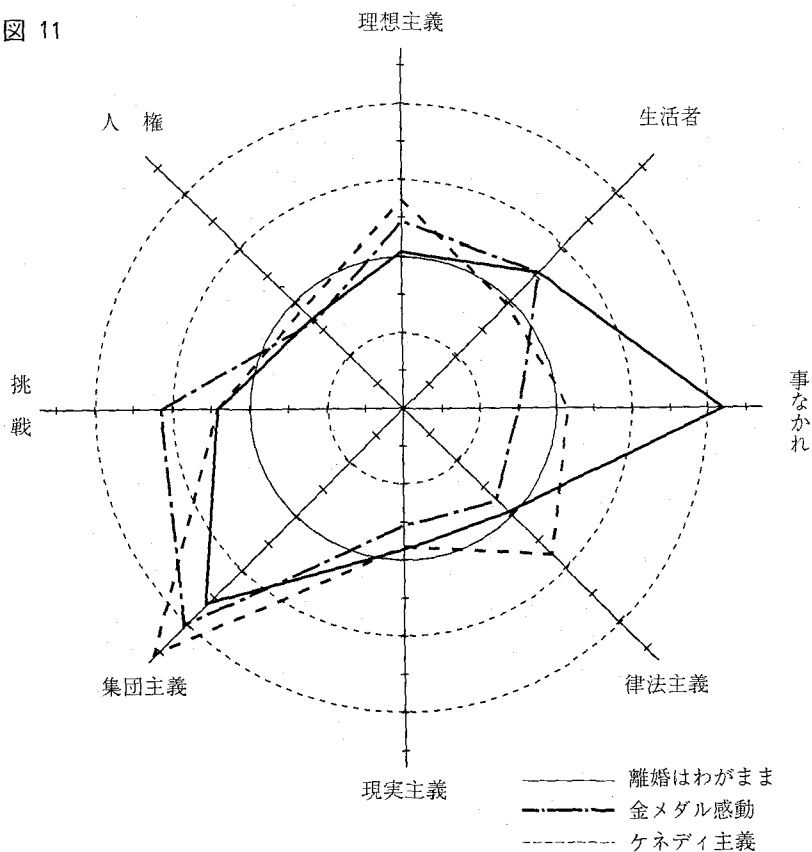


なり含んでいる。また、「必勝の信念」には理想主義の要素はあまり含まれない（自己の勝利をひたすら追求する者の関心は理想よりも利害にある）が、他の2者は理想主義をもかなり含んでいる。

### 5. 集団主義型の意見項目群

「離婚はわがまま」「金メダル感動」「ケネディ主義」の3者は、集団主義意識によって強く支持されるという点で共通の特徴を有し、集団主義型の意見項目群としてまとめることができる（図11）。これらのうち「離婚はわがまま」だけは事なかれの要素をも強く含んでいる。「離婚はわがまま」という意見項

図 11

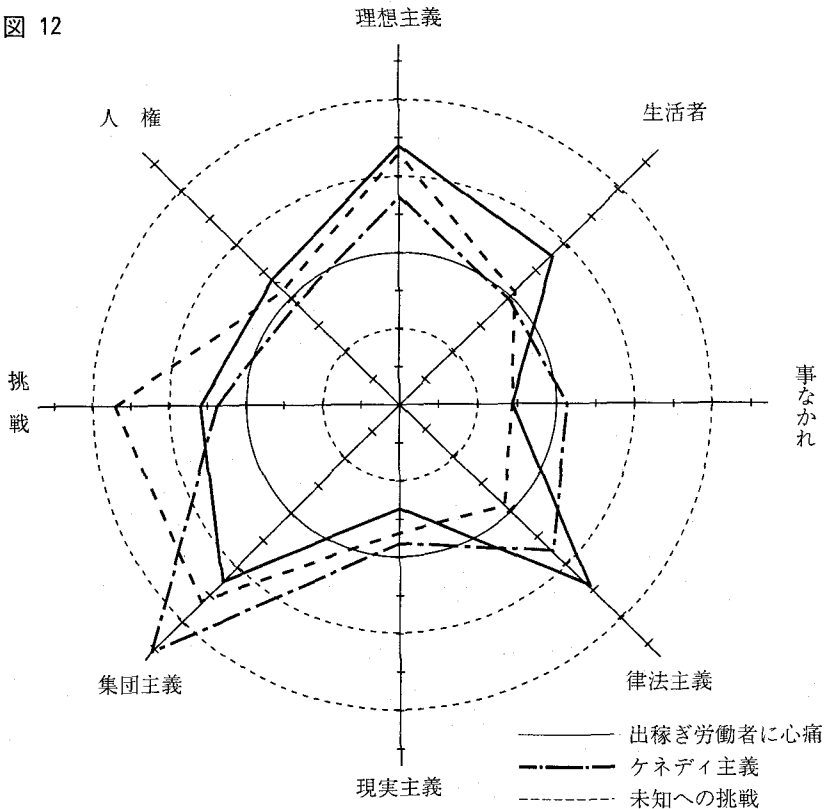


目は、離婚の増加は国家の安定にとって有害だといった多分に理念的な観点から支持されていると同時に、生活の安定を求める私生活至上主義的な観点からも賛同を得ているわけで、そのように賛同の動機がかけ離れた複数の軸にまたがっているところに、この意見項目の特徴がある。

### 6. 集団主義・理想主義の意見項目群

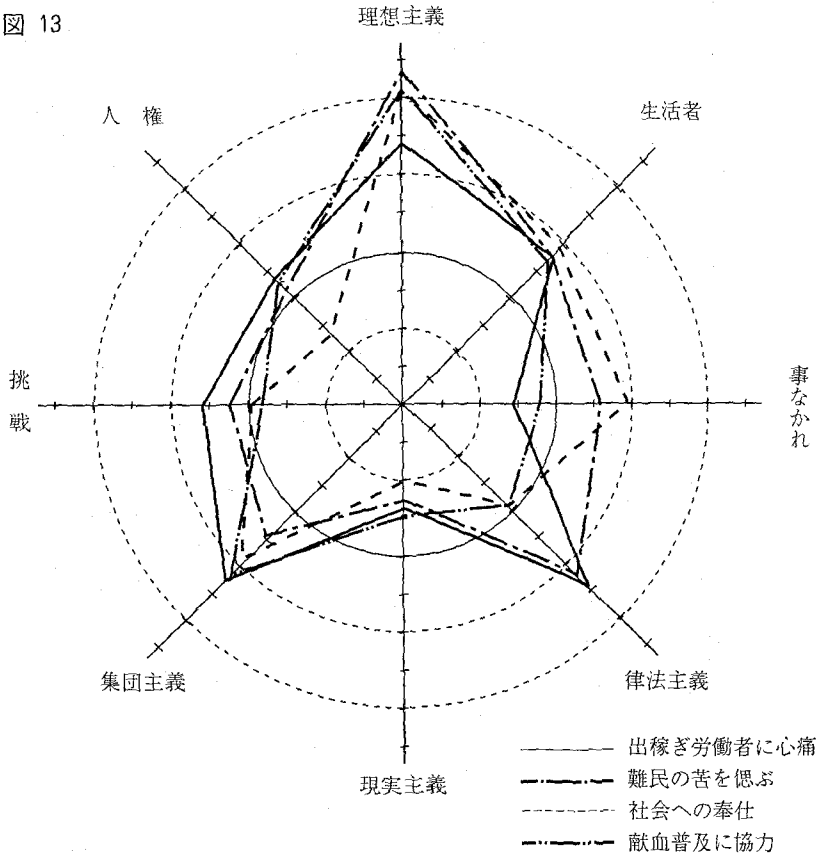
「出稼ぎ労働者に心痛」「ケネディ主義」「未知への挑戦」「難民の苦を偲ぶ」「社会への奉仕」「献血普及に協力」の6項目は、集団主義意識と理想主義意識との両面から支持されているので、集団主義・理想主義の意見項目群としてまとめてみることにした(図12, 図13)。これらのうち「ケネディ主義」と「未

図 12



知への挑戦」は集団主義の側面のほうが強いので、理想主義的集団主義というサブグループに分類することができる。「難民の苦を偲ぶ」「社会への奉仕」「献血普及に協力」の3者は理想主義の側面のほうが強いので、集団主義的理想主義というサブグループに分類することができる。「出稼ぎ労働者に心痛」は集団主義と理想主義のウエイトがほぼ同等で、両サブグループにまたがる中間地点に位置づけられる。この意見項目の支持のされ方が複雑であるのは、弱者へのいたわりという理想主義に通じるとともに「国家の恥だ」といったハードな思想にも通じるところがあるからのようである。

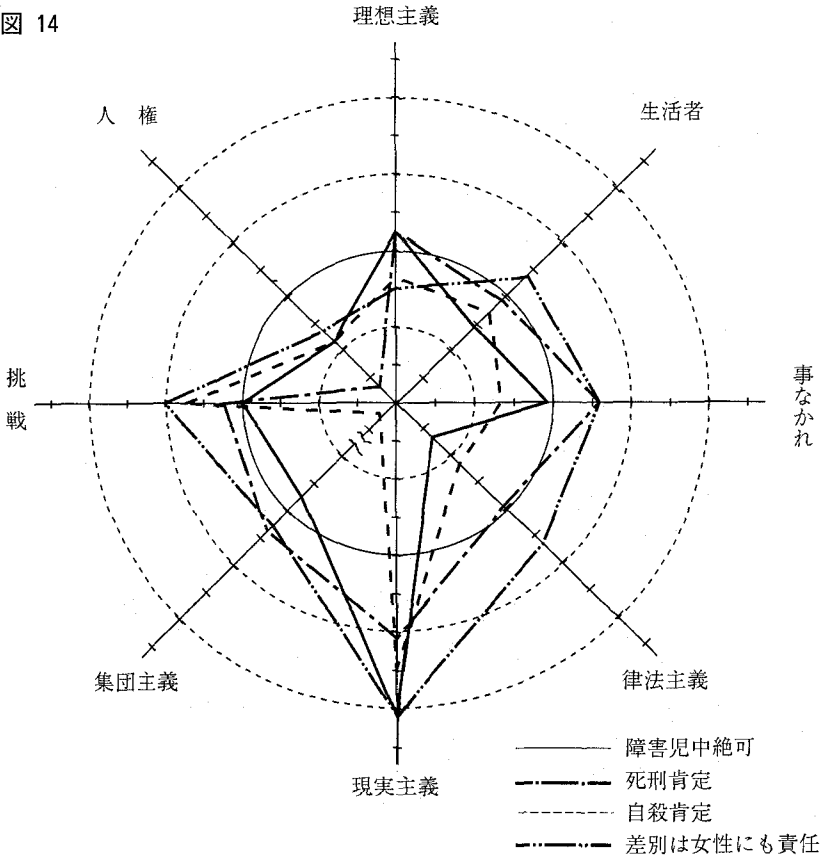
図 13



### 7. 反人権的現実主義の意見項目群

「障害児中絶可」「死刑肯定」「自殺肯定」「差別は女性にも責任」の4項目は、現実主義意識から支持されると同時に人権意識からは反発されるという共通の特徴をもっているため、反人権的現実主義の意見項目群としてまとめることができる(図14)。これらはいずれも、非公式の場での発言としてはありふれているが、新聞の社説などには取り上げられにくい意見で、社会の指導層が不用意にこの種の発言をすれば、舌禍事件となる。「自殺肯定」を除いてあとの3項目は、権力側に立つ人々の本音といった色彩の濃い意見群である。

図 14

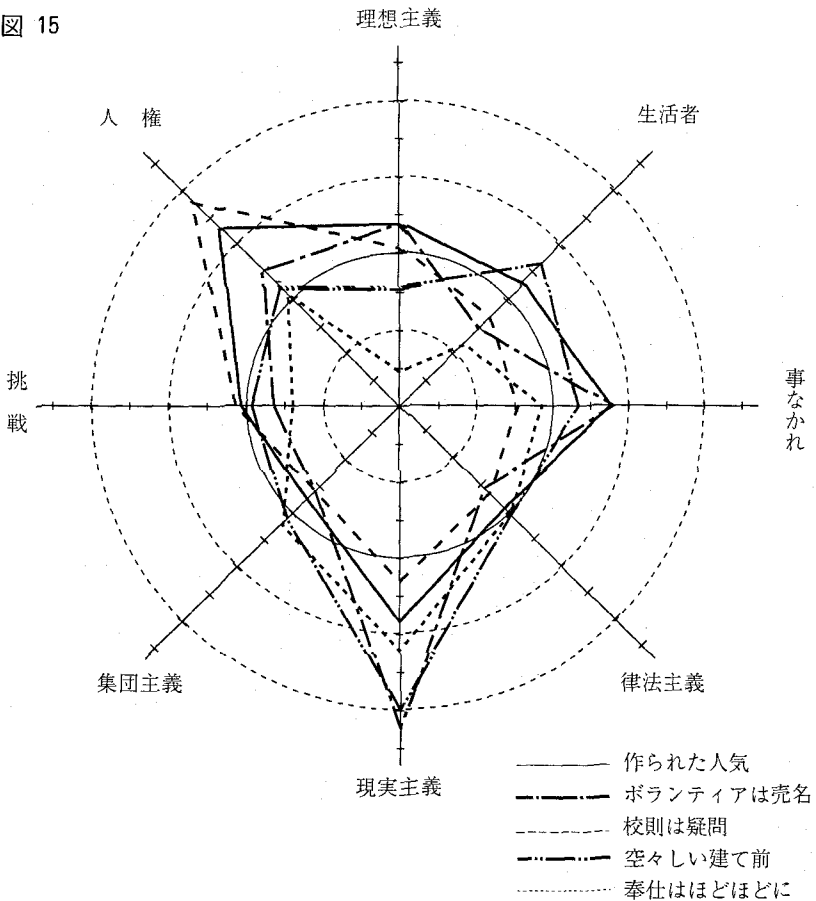




8. 人権的現実主義の意見項目群

「作られた人気」「ボランティアは売名」「校則は疑問」の3項目は、現実主義意識と人権意識との両方から支持されるという共通の特徴をもっているので、人権的現実主義の意見項目群としてまとめることができる。「空々しい建て前」および「奉仕はほどほどに」の2項目の場合は、人権意識からの支持は微弱になるが、それでも正の方向であるから、いちおう人権的現実主義の亜流としてグループに加えることにする(図15)。この意見項目群の特色は、悪くいえば

図 15



「ほやき型」の反権力的姿勢という点である。現在の世の中で羽振りよくやっている人々や、管理者の立場にある人々に対して、その実態は建て前とは異なるとして陰でこきおろすような姿勢が、これらの意見には共通している。

この人権的現実主義の意見項目群を、先の反人権的現実主義の意見項目群と比較してみると、同じく現実主義意識であっても、自分の立場をどちらかといえば権力側に置く傾向のある人々の場合の現実主義と、どちらかといえば反権力側に置く傾向のある人々の場合の現実主義とでは、具体的な社会的意見としてのあらわれ方は大きく異なってくるということがいえる。しかし、現実主義意識の人というのは、反権力的姿勢をとる場合も根っこには権力志向があって、それがかなえられないことで「ほやき型」になっていると解釈することもできる。そう解釈するなら、現象の多彩さにもかかわらず、現実主義にはつねに一貫したものがあるといえるかもしれない。

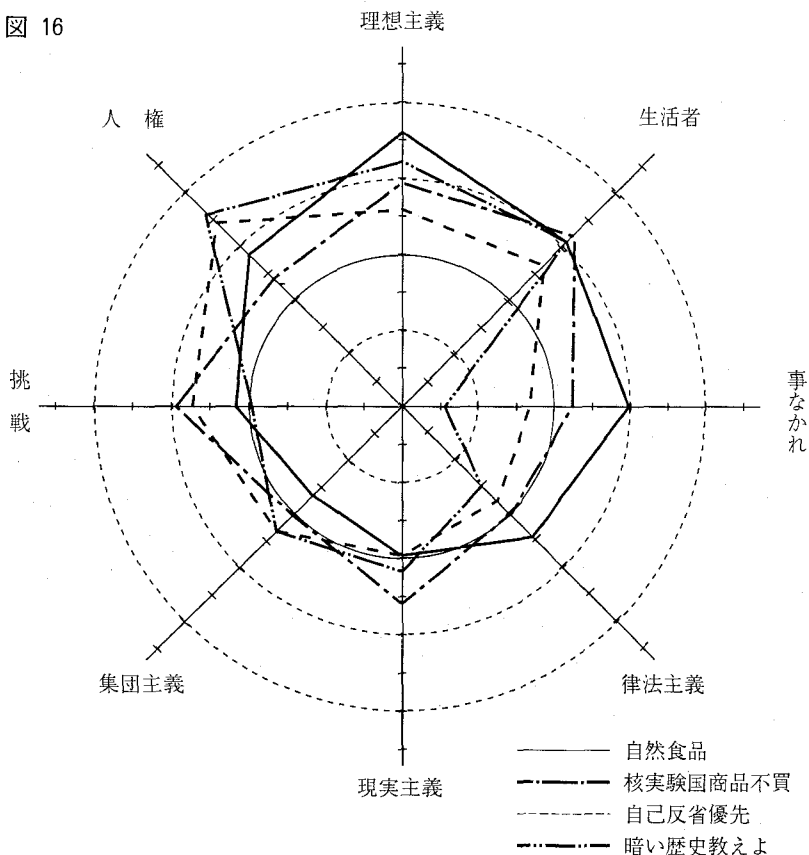
なお、「ボランティアは売名」がシニカルな現実主義の意識から強く支持されるだけでなく、理想主義や人権の意識からも多少支持されているのは、これらの思想傾向の人々は金持ちのお遊びのようにみえるたぐいのボランティア活動に対しては嫌悪感を抱くからであろう。生活者意識からの反応はむしろその逆になっている。生活者意識の人々というのは、自分たちの日々の生活にとつて役立つか否かを判断基準とするので、ボランティア活動に対しては、かりに多少売名的なおいがしたところで、やらないよりはやるほうが偉いと、素直に評価するのであろう。

### 9. 理想主義・人権・生活者の意見項目群

「自然食品」「核実験国商品不買」「自己反省優先」「暗い歴史教えよ」「公害薬害補償せよ」「大企業課税強化」「福祉都市計画推進」の7項目は、理想主義意識、人権意識、生活者意識の3者の意識から支持されるという共通の特徴をもっているので、理想主義・人権・生活者の意見項目群としてまとめることができる(図16, 図17)。これらのうち「自然食品」「核実験国商品不買」「暗い歴史教えよ」の3者は理想主義のウエイトが比較的大きいので、「生活者と人権の意識をともなった理想主義型の意見」というサブグループに分類すること

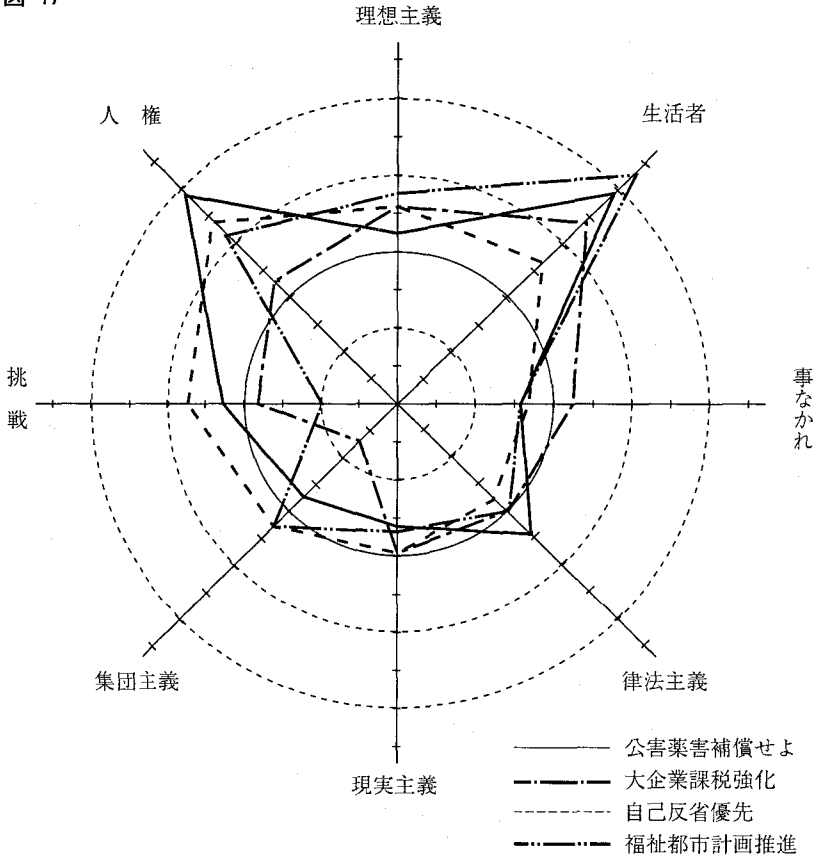
ができる。「公害薬害補償せよ」「大企業課税強化」「福祉都市計画推進」の3者では理想主義のウエイトがやや小さくなり、代わって生活者と人権のウエイトが高まっているので、「理想主義の意識をともなった人権・生活者型の意見」というサブグループに分類することができる。後者のサブグループのほうがより闘争的な意見だということができる。

図 16



意外なのは、「自己反省優先」が両サブグループの境界あたりに位置して、この理想主義・人権・生活者の意見項目群の立派な一員をなしているという事実である。これは、19世紀のロシアのナロードニキ以来、知識人の革命運動

図 17

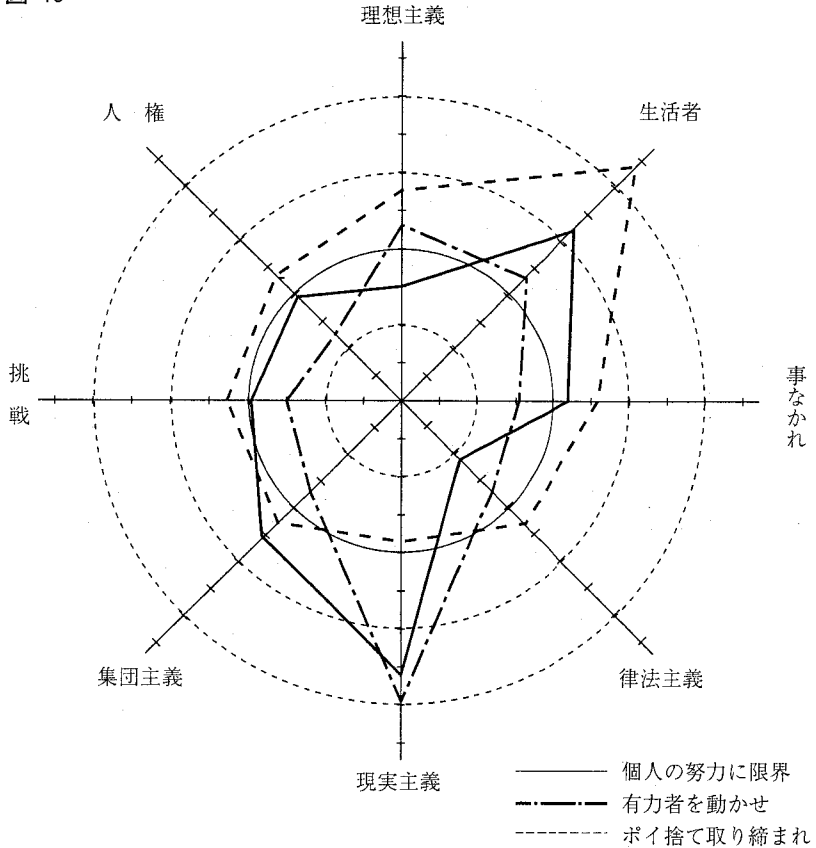


のひとつの伝統であった「社会批判はまず自己批判から」というメンタリティーが、現代の若者のあいだにも何らかの形で受け継がれているためと考えられる。

### 10. 仲立ちを含む特殊なクラスター

「個人の努力に限界」「有力者を動かせ」「ポイ捨て取り締まれ」の3項目のあいだの関係が、こうした関係のひとつの例となっている(図18)。「個人の努力に限界」は、現実主義意識から強く支持されると同時に、生活者意識からも支持されている。前者の動機から支持する人々は、「自分らが個人でこまめに動いたところで高が知れている。世の中は有力者の力なしには動かない」と

図 18



考えるのであろう。後者の動機から支持する人々は、「個人個人が孤立して動いても高が知れているが、みんなが協力して社会を変える運動を育ててゆけば、大きな成果が期待できる」と考えるのであろう。したがって、前者の動機の部分が「有力者を動かせ」と共鳴し、後者の動機の部分が「ポイ捨て取り締まれ」と共鳴するのである。しかし、ほとんどもっぱら現実主義意識だけから支持されている「有力者を動かせ」と、ほとんどもっぱら生活者意識だけから支持されている「ポイ捨て取り締まれ」とのあいだには、共鳴するところはないのである。ちなみに、これら3項目のあいだの相関係数の構造は表2のようになっ

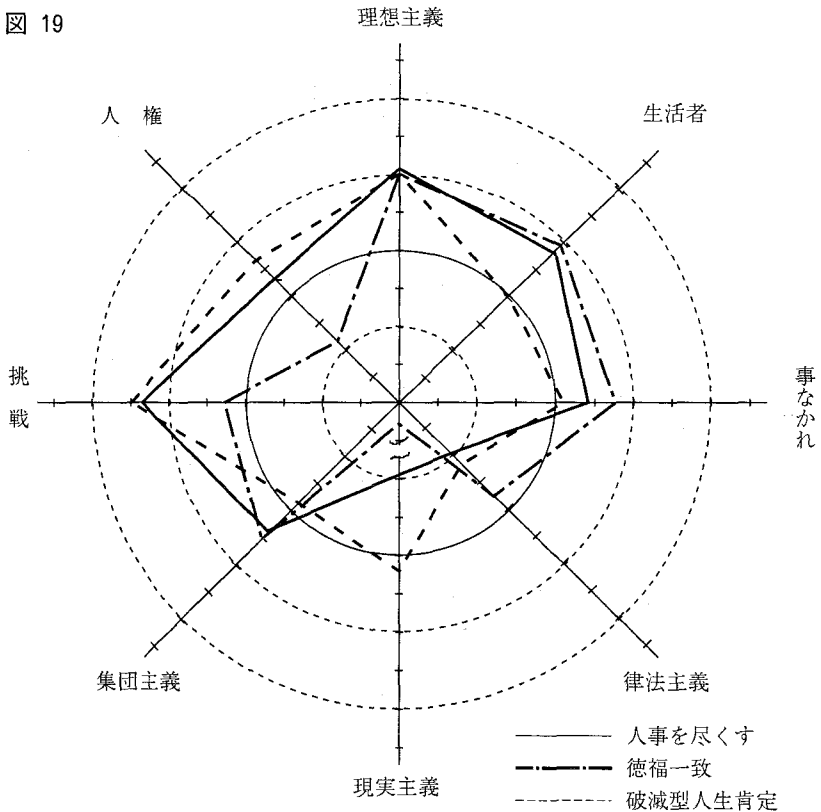
ている。

表 2

	個人の努力に限界	有力者を動かせ	ポイ捨て取り縮まれ
個人の努力に限界	1.00000	0.16628	0.08350
有力者を動かせ	0.16628	1.00000	-0.04956
ポイ捨て取り縮まれ	0.08350	-0.04956	1.00000

「人事を尽くす」「徳福一致」「破滅型人生肯定」の3項目のあいだでは、こうした関係はとりわけ顕著である(図19)。「人事を尽くす」は、生活者意識

図 19



と理想主義意識から支持され、現実主義意識から反発されているという点で、「徳福一致」と共通している。と同時に、理想主義意識、挑戦意識、人権意識から支持されているという点では、「破滅型人生肯定」と共通している。しかし、「徳福一致」と「破滅型人生肯定」とでは、同じ因子から同方向の影響を受けている部分がきわめて少ないので、両意見への賛否はほとんど連動しない。つまり、「人事を尽くす」という考え方には他の多くの考え方と通じ合う幅の広さがあって、円満で穏健な道徳をめざすような部分は「徳福一致」と通じ合い、結果がどうなろうと突き進むといった冒険的な部分は「破滅型人生肯定」と通じ合っているが、相手方となる意見項目相互間では共鳴するところがないのである。ちなみに、これら3項目のあいだの相関係数の構造は表3のようになっている。

表3

	人事を尽くす	徳 福 一 致	破滅型人生肯定
人事を尽くす	1.00000	0.29186	0.22419
徳 福 一 致	0.29186	1.00000	-0.00892
破滅型人生肯定	0.22419	-0.00892	1.00000

## 11. 安全保障関係の意見項目群

最後に、安全保障問題に関連する「戦争謝罪不愉快」「憲法改正」「米軍基地必要」「戦没者公的慰霊」の4項目の位置関係を検討しておこう。

これらのうち、「戦争謝罪不愉快」は、先にもみたとおり、事なかれ意識によって強く支持されていて理想主義意識からは強く反発されており、他の意見項目とはかなり異質である。注意すべきことは、旧革新系の考え方と思われる人権意識が、必ずしもこの意見項目に強く反発しているわけでもないという点である。また、一見戦前の愛国主義に近いと思われる集団主義の意識はこの問題にはほぼ中立である。現代の若者のあいだでは、愛国主義といっても第二次世界大戦の反省をせずに開き直ろうというような意識とは一線を画しているよ

うである。そして、戦争謝罪は旧革新系の専売特許ではなくなり、リベラルで理想主義的な人々の共通の合意となりつつあるようである。

これにひきかえ「憲法改正」「米軍基地必要」などは、人権意識から強く反発されている反人権的意見の代表選手であるが、しかしながら、これらはさほど感情的な視点から支持されているわけではないということに、注意しなければならない。これらは集団主義の要素をある程度含むと同時に、理想主義の意識からも中立ないしわずかに賛同の反応を得ている。つまり、現時点での日本国家はどうあるべきかといった比較的冷静な理念追求的視点から、これらの意見は賛同を得ているものと解釈できる。「戦争謝罪不愉快」が事なかれ意識(現状を変えたくない意識)や挑戦意識(体育会的ヒロイズム)や現実主義意識(「建て前なんかそくらえ」というシニシズム)によって支持されている多分に感情的なものであると比較するとき、「憲法改正」や「米軍基地必要」をそれと同列の意見として決めつけるのは不毛な批評といえよう。

「戦没者公的慰霊」の場合は、「戦争謝罪不愉快」との異質性がとりわけはっきりしている。この意見項目は集団主義意識ばかりでなく理想主義意識や生活者意識からもある程度の支持を得ており、また、人権意識からは反発されているとはいえ、その程度はさほど強くない。概して理想主義、人権、生活者の3因子は、世にいわゆる「進歩的」意見と結びつく場合が多いが、そうした「進歩的」意識のうちでも、温和な平和主義の意識や主婦運動家的意識などは、戦没者の公的慰霊そのものには賛同する側に立っていることに、注意が必要である。従来のがが国では、ここでいう人権意識を強くもっていると思われる人々のあいだでは、この戦没者慰霊の問題をもっぱら軍拡反対論と信教自由論に結びつけて論じるのが一般的傾向であったが、若者の意識の実態に照らしてみると、そういった視角だけからではこの問題は論じられないものであることがわかる。

ちなみに、これら4項目のあいだの相関係数の構造は表4のようになっている。



図 20

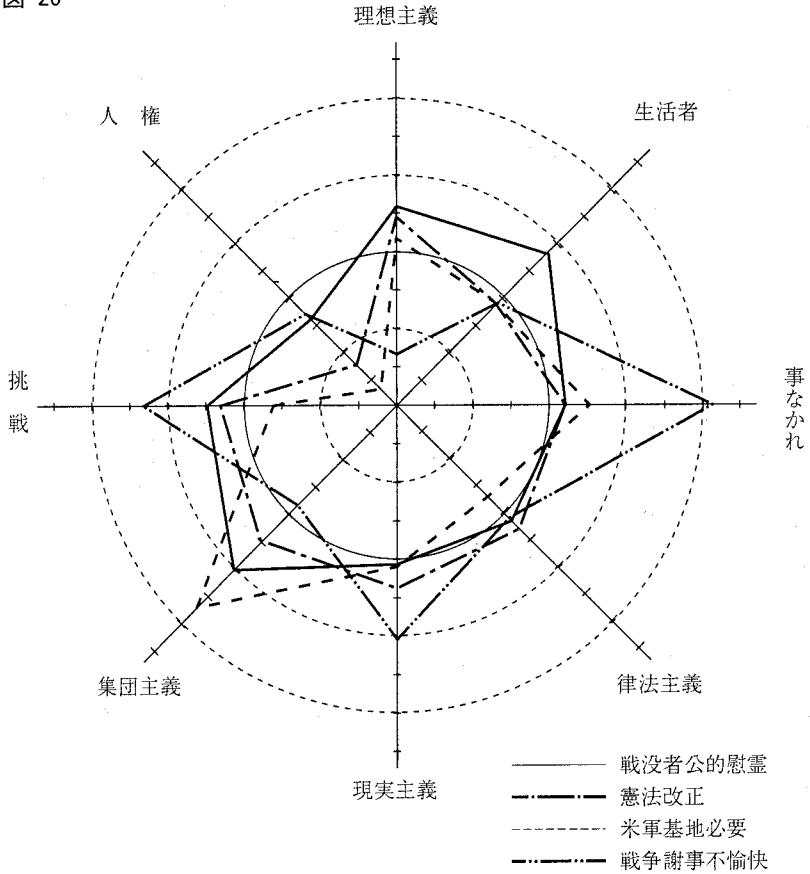


表 4

	戦争謝罪不愉快	憲法改正	米軍基地必要	戦没者公の慰霊
戦争謝罪不愉快	1.00000	0.15079	0.00973	0.01419
憲法改正	0.15079	1.00000	0.20673	0.19433
米軍基地必要	0.00973	0.20673	1.00000	0.17477
戦没者公の慰霊	0.01419	0.19433	0.17477	1.00000

### Ⅲ. 個々の意見項目に対する賛成度の度数分布

ところで、前稿の読者の中から、因子分析以前の素朴な分析として、被験者のあいだでどの意見項目がどの程度に賛成を得ているかの情報も重要ではないかとの指摘があった。筆者は、前稿の表1において、回答のカテゴリーを数値化したものの平均値と標準偏差を意見項目別に示し、平均値によって順位づけすることによって、この種の問題意識にはすでに答えているつもりであった。しかし、度数分布そのものを示しておかなかったのは、不備といえは不備である。そこで、今回は個々の意見項目に対する回答の度数分布および相対度数分布を表5～表9として示した。度数のうしろのカッコ内に示してあるのが、行和を分母とする百分率表示の相対度数である。

表5

意見項目	被験者属性	賛成度(カッコ内は配点)				計
		少しも うは思 わない (1)	どちらか といえ ば思わ ない (2)	どちらか といえ ば思 う (3)	まこと に思 う (4)	
1 礼儀重視	全体	2(0.7)	8(2.9)	178(63.8)	91(32.6)	279(100)
	男性	2(1.0)	4(2.1)	108(56.3)	78(40.6)	192(100)
	女性	0(0.0)	4(4.6)	70(80.5)	13(14.9)	87(100)
2 戦争謝罪不愉快	全体	59(21.1)	110(39.4)	83(29.7)	27(9.7)	279(100)
	男性	45(23.4)	66(34.4)	57(29.7)	24(12.5)	192(100)
	女性	14(16.1)	44(50.6)	26(29.9)	3(3.4)	87(100)
3 エイズ天罰	全体	141(50.5)	101(36.2)	31(11.1)	6(2.2)	279(100)
	男性	98(51.0)	68(35.4)	20(10.4)	6(3.1)	192(100)
	女性	43(49.4)	33(37.9)	11(12.6)	0(0.0)	87(100)
4 専業主婦尊重	全体	18(6.5)	71(25.4)	125(44.8)	65(23.3)	279(100)
	男性	12(6.3)	37(19.3)	93(48.4)	50(26.0)	192(100)
	女性	6(6.9)	34(39.1)	32(36.8)	15(17.2)	87(100)
5 福祉自助努力	全体	20(7.2)	71(25.4)	141(50.5)	47(16.8)	279(100)
	男性	14(7.3)	41(21.4)	98(51.0)	39(20.3)	192(100)
	女性	6(6.9)	30(34.5)	43(49.4)	8(9.2)	87(100)
6 婚前交渉不可	全体	143(51.3)	102(36.6)	28(10.0)	6(2.2)	279(100)
	男性	103(53.6)	64(33.3)	22(11.5)	3(1.6)	192(100)
	女性	40(46.0)	38(43.7)	6(6.9)	3(3.4)	87(100)
7 離婚はわがまま	全体	69(24.7)	113(40.5)	76(27.2)	21(7.5)	279(100)
	男性	43(22.4)	68(35.4)	64(33.3)	17(8.9)	192(100)
	女性	26(29.9)	45(51.7)	12(13.8)	4(4.6)	87(100)
8 女子だけの制服疑問	全体	34(12.2)	81(29.0)	99(35.5)	65(23.3)	279(100)
	男性	27(14.1)	58(30.2)	64(33.3)	43(22.4)	192(100)
	女性	7(8.0)	23(26.4)	35(40.2)	22(25.3)	87(100)
9 差別は女性にも責任	全体	36(12.9)	87(31.2)	123(44.1)	33(11.8)	279(100)
	男性	29(15.1)	60(31.3)	79(41.1)	24(12.5)	192(100)
	女性	7(8.0)	27(31.0)	44(50.6)	9(10.3)	87(100)
10 障害児中絶可	全体	28(10.0)	77(27.6)	142(50.9)	32(11.5)	279(100)
	男性	21(10.9)	51(26.6)	93(48.4)	27(14.1)	192(100)
	女性	7(8.0)	26(29.9)	49(56.3)	5(5.7)	87(100)

学生の社会意識の因子分析(補遺) (三土)

表 6

意見項目	被験者属性	賛成度(カッコ内は配点)				計
		少しも うは思わ ない (1)	どちらか いえば は思わ ない (2)	どちらか といえ ば そう 思う (3)	まこと に そう 思う (4)	
11 憲法改正	全体	109(39.1)	104(37.3)	53(19.0)	13( 4.7)	279(100)
	男性	81(42.2)	59(30.7)	40(20.8)	12( 6.2)	192(100)
	女性	28(32.2)	45(51.7)	13(14.9)	1( 1.1)	87(100)
12 大企業課税強化	全体	13( 4.7)	59(21.1)	121(43.4)	86(30.8)	279(100)
	男性	10( 5.2)	44(22.9)	75(39.1)	63(32.8)	192(100)
	女性	3( 3.4)	15(17.2)	46(52.9)	23(26.4)	87(100)
13 自然食品	全体	8( 2.9)	82(29.4)	148(53.0)	41(14.7)	279(100)
	男性	7( 3.6)	57(29.7)	99(51.6)	29(15.1)	192(100)
	女性	1( 1.1)	25(28.7)	49(56.3)	12(13.8)	87(100)
14 公害被害補償せよ	全体	4( 1.4)	12( 4.3)	94(33.7)	169(60.6)	279(100)
	男性	4( 2.1)	11( 5.7)	59(30.7)	118(61.5)	192(100)
	女性	0( 0.0)	1( 1.1)	35(40.2)	51(58.6)	87(100)
15 中流志向	全体	89(31.9)	56(30.1)	102(36.6)	32(11.5)	279(100)
	男性	69(35.9)	38(19.8)	63(32.8)	22(11.5)	192(100)
	女性	20(23.0)	18(20.7)	39(44.8)	10(11.5)	87(100)
16 ボランティアは売名	全体	55(19.7)	166(59.5)	49(17.6)	9( 3.2)	279(100)
	男性	41(21.4)	106(55.2)	36(18.8)	9( 4.7)	192(100)
	女性	14(16.1)	60(69.0)	13(14.9)	0( 0.0)	87(100)
17 献血普及に協力	全体	11( 3.9)	65(23.3)	157(56.3)	46(16.5)	279(100)
	男性	10( 5.2)	43(22.4)	109(56.8)	30(15.6)	192(100)
	女性	1( 1.1)	22(25.3)	48(55.2)	16(18.4)	87(100)
18 出稼ぎ労働者に心痛	全体	12( 4.3)	33(11.8)	98(35.1)	139(48.7)	279(100)
	男性	11( 5.7)	26(13.5)	69(35.9)	86(44.8)	192(100)
	女性	1( 1.1)	7( 8.0)	29(33.3)	50(57.5)	87(100)
19 核実験国商品不買	全体	19( 6.8)	77(27.6)	99(35.5)	84(30.1)	279(100)
	男性	16( 8.3)	47(24.5)	73(38.0)	56(29.2)	192(100)
	女性	3( 3.4)	30(34.5)	26(29.9)	28(32.2)	87(100)
20 必勝の信念	全体	6( 2.2)	19( 6.8)	82(29.4)	172(61.6)	279(100)
	男性	6( 3.1)	16( 8.3)	46(24.0)	124(64.6)	192(100)
	女性	0( 0.0)	3( 3.4)	36(41.4)	48(55.2)	87(100)

表7

意見項目	被験者属性	賛成度(カッコ内は配点)				計
		少しも うは思わ ない (1)	どちらか いえば は思わ ない (2)	どちらか といえ ば そう 思う (3)	まこと に そう 思う (4)	
21 死刑肯定	全体	38(13.6)	82(29.4)	87(31.2)	72(25.8)	279(100)
	男性	29(15.1)	51(26.6)	60(31.3)	52(27.1)	192(100)
	女性	9(10.3)	31(35.6)	27(31.0)	20(23.0)	87(100)
22 福祉都市計画推進	全体	0(0.0)	9(3.2)	100(35.8)	170(60.9)	279(100)
	男性	0(0.0)	7(3.6)	73(38.0)	112(58.3)	192(100)
	女性	0(0.0)	2(2.3)	27(31.0)	58(66.7)	87(100)
23 個人の努力に限界	全体	6(2.2)	12(4.3)	71(25.4)	190(68.1)	279(100)
	男性	4(2.1)	10(5.2)	44(22.9)	134(69.8)	192(100)
	女性	2(2.3)	2(2.3)	27(31.0)	56(64.4)	87(100)
24 大人が悪い	全体	42(15.1)	106(38.0)	98(35.1)	33(11.8)	279(100)
	男性	33(17.2)	76(39.6)	62(32.3)	21(10.9)	192(100)
	女性	9(10.3)	30(34.5)	36(41.4)	12(13.8)	87(100)
25 米軍基地必要	全体	86(30.8)	117(41.9)	68(24.4)	8(2.9)	279(100)
	男性	57(29.7)	72(37.5)	57(29.7)	6(3.1)	192(100)
	女性	29(33.3)	45(51.7)	11(12.6)	2(2.3)	87(100)
26 自殺肯定	全体	97(34.8)	76(27.2)	63(22.6)	43(15.4)	279(100)
	男性	66(34.4)	49(25.5)	39(20.3)	38(19.8)	192(100)
	女性	31(35.6)	27(31.0)	24(27.6)	5(5.7)	87(100)
27 校則は疑問	全体	9(3.2)	36(12.9)	86(30.8)	148(53.0)	279(100)
	男性	5(2.6)	20(10.4)	53(27.6)	114(59.4)	192(100)
	女性	4(4.6)	16(18.4)	33(37.9)	34(39.1)	87(100)
28 金メダル感動	全体	12(4.3)	32(11.5)	105(37.6)	130(46.6)	279(100)
	男性	10(5.2)	24(12.5)	68(35.4)	90(46.9)	192(100)
	女性	2(2.3)	8(9.2)	37(42.5)	40(46.0)	87(100)
29 戦没者公的慰霊	全体	26(9.3)	78(28.0)	121(43.4)	54(19.4)	279(100)
	男性	22(11.5)	53(27.6)	76(39.6)	41(21.4)	192(100)
	女性	4(4.6)	25(28.7)	45(51.7)	13(14.9)	87(100)
30 計画経済怠け者	全体	15(5.4)	96(34.4)	128(45.9)	40(14.3)	279(100)
	男性	15(7.8)	61(31.8)	84(43.8)	32(16.7)	192(100)
	女性	0(0.0)	35(40.2)	44(50.6)	8(9.2)	87(100)

学生の社会意識の因子分析(補遺) (三土)

表 8

意見項目	被験者属性	賛成度(カッコ内は配点)				計
		少しもその うは思わ ない (1)	どちらかと いえばそう は思わない (2)	どちらか といえ ば そう思う (3)	まことに そう思う (4)	
31 ボルノ法規制	全体	85(30.5)	134(48.0)	47(16.8)	13( 4.7)	279(100)
	男性	73(38.0)	88(45.8)	25(13.0)	6( 3.1)	192(100)
	女性	12(13.8)	46(52.9)	22(25.3)	7( 8.0)	87(100)
32 ケネディ主義	全体	39(14.0)	101(36.2)	100(35.8)	39(14.0)	279(100)
	男性	32(16.7)	62(32.3)	70(36.5)	28(14.6)	192(100)
	女性	7( 8.0)	39(44.8)	30(34.5)	11(12.6)	87(100)
33 未知への挑戦	全体	11( 3.9)	78(28.0)	123(44.1)	67(24.0)	279(100)
	男性	11( 5.7)	50(26.0)	80(41.7)	51(26.6)	192(100)
	女性	0( 0.0)	28(32.2)	43(49.4)	16(18.4)	87(100)
34 社会への奉仕	全体	24( 8.6)	125(44.8)	115(41.2)	15( 5.4)	279(100)
	男性	22(11.5)	81(42.2)	76(39.6)	13( 6.8)	192(100)
	女性	2( 2.3)	44(50.6)	39(44.8)	2( 2.3)	87(100)
35 空々しい建て前	全体	22( 7.9)	62(22.2)	128(45.9)	67(24.0)	279(100)
	男性	19( 9.9)	45(23.4)	78(40.6)	50(26.0)	192(100)
	女性	3( 3.4)	17(19.5)	50(57.5)	17(19.5)	87(100)
36 こまめな実践	全体	0( 0.0)	14( 5.0)	69(24.7)	196(70.3)	279(100)
	男性	0( 0.0)	10( 5.2)	49(25.5)	133(69.3)	192(100)
	女性	0( 0.0)	4( 4.6)	20(23.0)	63(72.4)	87(100)
37 有力者を動かせ	全体	24( 8.6)	89(31.9)	105(37.6)	61(21.9)	279(100)
	男性	17( 8.9)	59(30.7)	66(34.4)	50(26.0)	192(100)
	女性	7( 8.0)	30(34.5)	39(44.8)	11(12.6)	87(100)
38 人事を尽くす	全体	7( 2.5)	37(13.3)	112(40.1)	123(44.1)	279(100)
	男性	6( 3.1)	25(13.0)	71(37.0)	90(46.9)	192(100)
	女性	1( 1.1)	12(13.8)	41(47.1)	33(37.9)	87(100)
39 暗い歴史を教えよ	全体	1( 0.4)	12( 4.3)	96(34.4)	170(60.9)	279(100)
	男性	1( 0.5)	9( 4.7)	57(29.7)	125(65.1)	192(100)
	女性	0( 0.0)	3( 3.4)	39(44.8)	45(51.7)	87(100)
40 シゴキ肯定	全体	43(15.4)	95(34.1)	97(34.8)	44(15.8)	279(100)
	男性	36(18.8)	52(27.1)	66(34.4)	38(19.8)	192(100)
	女性	7( 8.0)	43(49.4)	31(35.6)	6( 6.9)	87(100)

表9

意見項目	被験者属性	賛成度(カッコ内は配点)				計
		少しも うは思わ ない (1)	どちらか いえば は思わ ない (2)	どちらか といえ ば そう 思う (3)	まこと に そう 思う (4)	
41 作られた人気	全体	10( 3.6)	72(25.8)	123(44.1)	74(26.5)	279(100)
	男性	9( 4.7)	45(23.4)	80(41.7)	58(30.2)	192(100)
	女性	1( 1.1)	27(31.0)	43(49.4)	16(18.4)	87(100)
42 徳福一致	全体	33(11.8)	102(36.6)	95(34.1)	49(17.6)	279(100)
	男性	29(15.1)	66(34.4)	63(32.8)	34(17.7)	192(100)
	女性	4( 4.6)	36(41.4)	32(36.8)	15(17.2)	87(100)
43 奉仕はほどほどに	全体	24( 8.6)	129(46.2)	103(36.9)	23( 8.2)	279(100)
	男性	17( 8.9)	97(50.5)	61(31.8)	17( 8.9)	192(100)
	女性	7( 8.0)	32(36.8)	42(48.3)	6( 6.9)	87(100)
44 自己反省優先	全体	2( 0.7)	11( 3.9)	147(52.7)	119(42.7)	279(100)
	男性	2( 1.0)	8( 4.2)	101(52.6)	81(42.2)	192(100)
	女性	0( 0.0)	3( 3.4)	46(52.9)	38(43.7)	87(100)
45 手作り弁当	全体	7( 2.5)	37(13.3)	126(45.2)	109(39.1)	279(100)
	男性	6( 3.1)	28(14.6)	82(42.7)	76(39.6)	192(100)
	女性	1( 1.1)	9(10.3)	44(50.6)	33(37.9)	87(100)
46 脱サラ志向	全体	48(17.2)	98(35.1)	78(28.0)	55(19.7)	279(100)
	男性	40(20.8)	69(35.9)	45(23.4)	38(19.8)	192(100)
	女性	8( 9.2)	29(33.3)	33(37.9)	17(19.5)	87(100)
47 難民の苦を偲ぶ	全体	19( 6.8)	30(10.8)	119(42.7)	111(39.8)	279(100)
	男性	17( 8.9)	27(14.1)	72(37.5)	76(39.6)	192(100)
	女性	2( 2.3)	3( 3.4)	47(54.0)	35(40.2)	87(100)
48 破滅型人生肯定	全体	35(12.5)	85(30.5)	85(30.5)	74(26.5)	279(100)
	男性	29(15.1)	52(27.1)	52(27.1)	59(30.7)	192(100)
	女性	6( 6.9)	33(37.9)	33(37.9)	15(17.2)	87(100)
49 ボイ捨て取り締まれ	全体	4( 1.4)	31(11.1)	105(37.6)	139(49.8)	279(100)
	男性	4( 2.1)	22(11.5)	76(39.6)	90(46.9)	192(100)
	女性	0( 0.0)	9(10.3)	29(33.3)	49(56.3)	87(100)
50 依存効果	全体	4( 1.4)	28(10.0)	120(43.0)	127(45.5)	279(100)
	男性	4( 2.1)	21(10.9)	79(41.1)	88(45.8)	192(100)
	女性	0( 0.0)	7( 8.0)	41(47.1)	39(44.8)	87(100)

その際、被験者の性別によって相対度数分布に多少の差がみられる意見項目もあるので、その事実を観察可能にするために、男女別に分けた度数分布と相対度数分布をも示した。なお、男女の被験者集団の度数の合計を全体の度数に一致させるために、被験者中、性別の申告を怠った7名については、この表の集計からは除外することにした。もちろん、この7名という数値は大勢に影響するほどの数値ではない。

[完]